

生物多様性アクション大賞2015 実施報告書



一般社団法人CEPAジャパン

表紙

目次	1
生物多様性アクション大賞2015概要	2
応募状況	5
受賞団体(5部門・特別賞)	6
受賞団体(審査委員賞)	8
入賞受賞団体	9
生物多様性アクション大賞2015授賞式	
・概要	10
・表彰状授与	11
・受賞者プレゼンテーション	13
・結果発表&集合写真	18
・協賛企業様からの応援スピーチ	19
エコプロダクツ2015での発表	21
受賞者アンケート結果	22
事前広報活動	
・ホームページ	25
・Facebookページ	26
・リーフレット&配布部数	27
・メディア掲載実績	28
事後広報活動	
・受賞者ロゴとバナー	30
・一次審査を通過した活動のHP掲載	31
・メディア掲載実績	32

1. 趣旨

国連生物多様性の10年日本委員会(UNDB-J)が推進している『5つのアクション(たべよう・ふれよう・つたえよう・まもろう・えらぼう)』に貢献する団体・個人の取組みを全国から募集。優れた活動を表彰、積極的な広報を行うことにより、生物多様性の主流化を目指します。活動規模の大小を問わず、あらゆるセクターに「生物多様性の自分ごと化」を促し、「国連生物多様性の10年」の広報・教育・普及啓発(CEPA)活動の一つとして、またGOP10で採択された「愛知目標」達成の一助として実施します。

2. 応募期間

2015年6月5日(金)～ 8月31日(月)

3. 主催 国連生物多様性の10年日本委員会(UNDB-J)

4. 共催 一般財団法人セブン-イレブン記念財団

5. 協賛 前田建設工業株式会社、セキスイハイム

6. 特別協力 公益社団法人国土緑化推進機構、経団連自然保護協議会

7. 協力 富士フイルム株式会社

8. 後援 朝日新聞社、共同通信社、日本経済新聞社、毎日新聞社

9. 事務局 一般社団法人CEPAジャパン

10. 審査のポイント

- ・だれもが参加しやすい、取り組みやすい(参加性)
- ・愛知ターゲット達成に貢献している(目的性)
- ・ユニークな活動(独創性)
- ・活動による影響力が大きい(波及性)
- ・長く続けられる(継続性、将来性)
- ・世界への影響力がある(国際性)
- ・応援したり、伝えたい(話題性、共感性)
- ・地域への貢献が高い(地域性)

11. 賞および賞品について

大賞(下記優秀賞から1組)

表彰状

副賞・賞金30万円

- ・コンパクトデジタルカメラ1台(富士フイルム提供)
- ・授賞式への招待とプレゼンテーション
- ・エコプロダクツ2015への招待とプレゼンテーション

優秀賞(各部門1組)

たべよう部門／ふれよう部門／つたえよう部門／まもろう部門／えらぼう部門

表彰状

副賞・賞金5万円

- ・コンパクトデジタルカメラ1台(富士フイルム提供)
- ・授賞式への招待とプレゼンテーション

復興支援賞(1組)

東日本大震災被災地での復興支援活動を表彰します。

表彰状

副賞・賞金20万円

- ・授賞式への招待とプレゼンテーション

グリーンウェイブ賞(1組)

木を植えたり、森林や樹木の手入れをしたりするような、自然と触れ合いつながりを学びあう活動を表彰します。

表彰状

副賞・賞金5万円

- ・季刊誌「ぐりん・もあ」への活動内容掲載
- ・授賞式への招待とプレゼンテーション

セブン-イレブン記念財団賞(1組)

地域社会との協働や活性化につながる活動を表彰します。

表彰状

副賞・一般財団法人セブン-イレブン記念財団発行の季刊誌「みどりの風」掲載

- ・授賞式への招待とプレゼンテーション

審査委員賞(7組)

表彰状

副賞・授賞式への招待

入賞

いきものぐらしHPにて活動情報の掲載

12. 審査委員（敬称略）

吉田正人（筑波大学 教授） 委員長

足立直樹（株式会社レスポンスアビリティ 代表取締役）

小野弘人（一般財団法人セブン-イレブン記念財団）

梶谷辰哉（公益社団法人国土緑化推進機構）

川廷昌弘（一般社団法人CEPAジャパン）

坂田昌子（国連生物多様性の10年市民ネットワーク 代表）

道家哲平（日本自然保護協会）

星野智子（一般社団法人環境パートナーシップ会議 副代表理事）

堀上 勝（環境省）

12. 応募部門

たべよう部門／ふれよう部門／つたえよう部門／まもろう部門／えらぼう部門

13. 応募資格

日本国内に活動拠点がある団体・個人

（注）政治活動や宗教の布教を目的として活動する団体や、公序良俗に反する活動は除く。

14. 選考スケジュール

募集……2015年6月5日（金）～ 8月31日（月）

一次審査…2015年9月14日（月）

二次審査…2015年10月5日（月）

授賞式……2015年12月11日（金）

エコプロダクツ2015でのプレゼンテーション…2015年12月12日（土）

応募状況

◎応募総数・・・135件
一次審査通過・・・58件

◎一次審査通過団体一覧(58件)

NO.	種別	団体名／チーム名	活動名	活動拠点
たべよう部門				
1	企業	NPO法人自然と共に生きる会サンガ	収穫感謝祭	福井県三方郡美浜町
2	市民団体	認定NPO法人自然再生センター	和スイーツで「中海の恵み」を発信！！ ～スーजीー・スイーツ～	島根県松江市
3	市民団体	まるやま組	明日のニッポンの素・あぜ豆腐油	石川県輪島市
4	企業	JTBイノベーション東北デスク	JTB東北ふるさと課(化)	東京都千代田区
5	市民団体	南魚沼きりざいDE愛隊	南魚沼きりざい井によるまちおこし	新潟県南魚沼市
6	個人	やまなば能登を喰らう	愉しく美味しく旬を食べる旬を遊ぶ	石川県鳳珠郡穴水町大町
7	市民団体	npo 加茂女	竹を食べて放置竹林をなくす	京都府木津川市
8	市民団体	自然文化誌研究会	植物と人々の博物館	東京都日野市
ふれよう部門				
1	市民団体	シャンティ国際ボランティア会 気仙沼事務所	あつまれ、浜わらす！	宮城県気仙沼市
2	企業	日本製紙 森紙	森と紙のなかよし学校	群馬県品川村
3	企業	神戸市立六甲道児童館	どんぐりマーケット	兵庫県神戸市
4	企業	(公財)東京動物園協会井の頭自然文化園	いきもの広場で遊ぼう	東京都武蔵野市
5	企業	バナホーム株式会社	ビオトープ「つながりのひろば」における環境体験学習	大阪府豊中市
6	市民団体	やまがたヤマネ研究会	高めよう！野生動物を守る地域のパワー	山形県山形市
7	市民団体	NACS-J自然観察指導員東京連絡会	みどりの自然観察会	東京都日野市
つたえよう部門				
1	企業	なぎさの体験学習館	子どもボランティア	神奈川県藤沢市
2	市民団体	NPO法人ういむい未来の里CSO	「森のいのち」を詩と映像で残す事業	青森県青森市
3	企業	キヤノン環境サイト運営チーム	生物多様性WEBコンテンツとフォトコンテスト	東京都港区
4	個人	栃木県小山市の生き物多様性伝道師	散歩中に見られる生き物を映像記録しよう会	栃木県小山市
5	企業	全国農業協同組合連合会 広報部	田んぼの生きもの調査	東京都千代田区
6	企業	公益財団法人図書館振興財団	図書館を使った調べる学習コンクール	東京都
7	市民団体	特定非営利活動法人おどろ木ネットワーク	青い森の巨木写真展	青森県青森市
8	個人	小粥隆弘	Twitterを用いた、生物多様性普及活動 ～この生き物の名前は何に？～	長野県上田市菅平高原
9	市民団体	みやこだ自然学校の会	みやこだ自然学校	静岡県浜松市
10	市民団体	一般社団法人てるはの森の会	人と自然のふれあい調査	宮崎県宮崎市
11	個人	外来種測量隊	外来種的日本地図から見えてくる生態系の今	福岡県久留米市
まもろう部門				
1	市民団体	全国カヤネズミ・ネットワーク	カヤネズミの住むカヤ原復活プロジェクト	京都府京都市
2	個人	ブッポウソウネットワーク・広島クマタカ生態研究会	絶滅危惧種ブッポウソウの保護など	広島県広島市
3	企業	農事組合法人さ・さとやま組合	日本古来の農の暮らしによる里山の生物多様性再生事業	奈良県大和郡山・桜井市
4	市民団体	東渡村清流会	アユさんへ 川好きが驚きました 次は川をつなげます	長崎県東彼杵町
5	市民団体	特定非営利活動法人ECOPLUS	清水いきもの復活大作戦	新潟県南魚沼市清水地区
6	市民団体	あざおね社中	青根の里山を未来遺産に	神奈川県相模原市
7	個人	中部農林高校 造園科・エコ・リサーチ部	美ら島エコ・リサーチ隊	沖縄県うるま市
8	企業	湖南 企業いきもの応援団	中小企業連携で進める生物多様性保全の取り組み	滋賀県草津市
9	市民団体	KESエコロジカルネットワーク	KESエコロジカルネットワークプロジェクト	京都府京都市
10	市民団体	青森県立名久井農業高等学校伝統野菜班	南部太ネギで地域を元気に	青森県三戸郡南部町
11	企業	日本野鳥の会と日本製紙のシマフクロウを守ろうチーム	協働活動によるシマフクロウの生息地保全と事業の両立	北海道釧路地域
12	市民団体	せせらぎの郷	須原 魚のゆかりごと水田プロジェクト	滋賀県野洲市須原
13	市民団体	一般社団法人久米島の海を守る会	サンゴ礁の海を守る！赤土土砂の流出防止、棚田の再生、外来種の駆除、海浜清掃	沖縄県島尻郡久米島町
14	市民団体	下田の杜里山協議会	下田の杜の保全・管理・お楽しみ	千葉県柏市
15	企業	足立区生物園	ツシマウラボシシジミ生息域外保全	東京都足立区
16	市民団体	NPO法人リトルターン・プロジェクト	絶滅から救え！コアジサシ	東京都大田区
17	市民団体	駒生川に魚道をつくる会	よみがえれ！駒生川	北海道網走郡美幌町
18	市民団体	特定非営利活動法人天明日の会	漁民の森づくり活動	熊本県熊本市
19	市民団体	三嶺の森をまもるみんなの会	市民団体のネットワークと行政との協働による三嶺自然林保全再生活動	高知県香南市
20	企業	石坂産業株式会社	くぬぎの森環境塾	埼玉県入間郡三芳町
21	市民団体	TAFS「地球を守る新技術の開発班」	地域の自生芝を活用する～多様性のある草原を創る～	京都府
22	市民団体	特定非営利活動法人ねっとわーく福島潟	福島潟の自然を守り、伝えよう	新潟県新潟市
23	市民団体	福田川クリーンクラブ	福田川生物多様性確保プロジェクト	兵庫県神戸市
24	企業	特定非営利活動法人信越トレイルクラブ	生物多様性の保全を基本とした次世代へ続く里山のトレイルづくり	長野県飯山市
25	市民団体	NPO法人はりま田舎暮らしの会	和蜂 まほろばの里 造成活動	兵庫県佐用郡佐用町
26	企業	三井住友信託銀行	ナショナル・トラスト地を題材とした学校教育プログラムの全国展開	東京都千代田区
27	企業	一般社団法人あしもとテラス	ちいさな村の森のようちえん	山梨県小菅村
えらぼう部門				
1	企業	三菱地所レジデンス株式会社	「BIO NET INITIATIVE」～いのちをつなぐ街づくり～	東京都千代田区
2	企業	中越パルプ工業株式会社	竹紙(たけがみ)の取り組み～本業を通じた社会的課題への挑戦～	東京都
3	企業	富士ゼロックス	持続可能な用紙調達	東京都港区
4	企業	NTTデータ	生物多様性の保全に向けた企業の社内消費におけるフェアトレード商品の活用	東京都江東区
5	市民団体	NPO法人游風	かまくら和器プロジェクト	神奈川県

【大賞】

「竹を食べて放置竹林をなくす」

特定非営利活動法人加茂女(市民団体) 京都府木津川市 ※たべよう部門「優秀賞」受賞



ゴミ問題から始まり、30年にわたり環境問題に取り組んできたというバックグラウンドから放置竹林への不法投棄の問題に気づき竹林整備をしています。切っても切っても生えてくる竹に業を煮やし「竹を食べて放置竹林を無くそう。」を合言葉に、筍の新しい食べ方の提案や食品開発をしています。



【優秀賞】

ふれよう部門:「いきもの広場で遊ぼう」

公益財団法人東京動物園協会井の頭自然文化園(企業) 東京都武蔵野市



井の頭自然文化園園内の一部を整備し、身近な自然で遊びながら、生きものを探し捕まえる体験をしてもらう「いきもの広場」として活用しています。生息する生きものは、こちらから移入すること無く、自然に集まってくる生きものたち。生きものを見せるのではなく、見つけてもらうことを目的としています。



つたえよう部門:「人と自然のふれあい調査」

一般社団法人てるはの森の会(市民団体) 宮崎県宮崎市



平成20年から8年間、宮崎県綾町4地区で「人と自然のふれあい調査」を実施しました。地域住民と一緒に調査し、地域の価値や生活知、思いを掘り起し、地域の再発見と地域を見つけ直すためのマップや冊子を作成しました。



まもろう部門:「中小企業連携で進める生物多様性保全の取り組み」

湖南 企業いきもの応援団(企業) 滋賀県草津市



地域の企業12社が行政・研究機関と連携して、身近な河川「狼川」の6カ所の水質と生きもの調査を年4回実施しています。調査結果は報告書にまとめ、参加企業や行政、関係機関、研究者と共有しています。



えらぼう部門:「BIO NET INITIATIVE ～いのちをつなぐ街づくり～」

三菱地所レジデンス株式会社(企業) 東京都千代田区



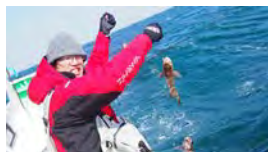
マンションを通じて、敷地の大小に関らず全物件で生物多様性保全に配慮した植栽計画に取り組んでいます。点であるマンション単体から、地域の緑地とを結ぶ線それらを周辺につなげていき、面として広げ、街づくりを通じて、飛来する鳥やチョウ等の休息中継を確保するといったエコロジカルネットワークを形成する取り組みを行っています。



【復興支援賞】

「いちえふ沖海洋調査」

いわき海洋調べ隊・うみラボ(市民団体) 福島県いわき市



福島第一原子力発電所沖の海洋調査をはじめ、「アクアマリンふくしま」と連動した福島の海を伝えるイベントの企画を行っています。また、ブログを通じた情報発信にも力を入れています。



【グリーンウェイブ賞】

「漁民の森づくり活動」

特定非営利活動法人天明水の会(市民団体) 熊本県熊本市



水を通した環境保全活動をテーマとして『緑川の清流を取り戻す流域連絡会』を中心に緑川流域の団体・自治体・住民が一丸となり清掃活動や『漁民の森づくり』として豊かな広葉樹の森づくりを推進し、生物多様性を保全すると共に、水源かん養・山地保全・環境保全を考え、洪水防止・流域貯水・水質浄化・土砂流出防止・炭素固定を図ります。それらを、遊びを通して学んでいます。



【セブン-イレブン記念財団賞】

「南部太ネギで地域を元気に」

青森県立名久井農業高等学校 伝統野菜班(市民団体) 青森県三戸郡南部町



絶滅寸前の伝統野菜「南部太ネギ」の栽培を地域一体となって復活させました。メニュー化、イベント開催等を図りながらその魅力を積極的に発信し、地域活性化へとつなげた活動です。



【審査委員賞】

「魚食普及による地方創生を図るプロジェクト」

気仙沼の魚を学校給食に普及させる会(市民団体) 宮城県気仙沼市



気仙沼の美味しい食材「生きた教材」を活用し、学校給食に普及させるとともに、食に携わる人達にもスポットを当て紹介することで、次世代を担う子ども達に地元の基幹産業(水産業)に対しての理解を深めてもらいながら、地元の食文化を知り、郷土愛や食への感謝の気持ちを育てて欲しいとの思いで小中学生を対象とした食育活動及び食育授業の実施、学校給食向け商品開発を行っています。



【審査委員賞】

「森のいのち」を詩と映像で残す事業」

特定非営利活動法人ういむい未来の里CSO(市民団体) 青森県青森市



森、里山にある豊穡のいのち、苔から山野草、昆虫、水棲生物、鳥、動物たちのいのちの連鎖。それを、子どもたちに伝え、森を歩き、いのちに触れ、森のすばらしさや奥深さを詩で表現し、詩の朗読を映像で残す活動をしています。



【審査委員賞】

「田んぼの生きもの調査」

全国農業協同組合連合会 広報部(企業) 東京都千代田区



田んぼの生きものに触れることを通じ、農業と生物多様性保全の大切さを学ぶ「田んぼの生きもの調査」を全国のJA・生産者・消費者・子どもたちと実施し、農業と環境の深い関わりや、生物多様性保全の大切さを「五感」を通じ感じ取ってもらう活動を展開しています。



【審査委員賞】

「地域の自生芝を活用する ～多様性のある草原を創る～」

京都府立桂高等学校 TAFS「地球を守る新技術の開発」班(市民団体) 京都府ほか



青森県種差海岸は日本有数の天然芝地で多くの絶滅危惧種が存在していますが、遺伝的多様性が失われつつあり減衰する恐れがあります。私達は開発した種子繁殖技術で遺伝的多様性の復元・保全に取り組んでいます。



【審査委員賞】

「持続可能な用紙調達」

富士ゼロックス株式会社(企業) 東京都千代田区



調達・使用・提供する用紙について、持続可能な森林管理がなされた材料を用い、保護価値の高い森林の保護や森林生態系に配慮した操業を行う調達先から調達することを定め、生物多様性の保全に貢献しています。



【審査委員賞】

「高めよう！野生動物を守る地域のパワー」

やまがたヤマネ研究会(市民団体) 山形県山形市



普段ほとんど目にすることのない希少な野生動物たちの現状を楽しく学ぶことのできる環境を作ること、地域の人たちが身の回りの自然を守るきっかけづくりをしています。目標は『みんなが地域の自然を守り伝える』ことです。5感を使って科学的に地域の自然や野生動物について学ぶ環境を作ること、生物多様性保全への意識を高める活動をしています。



【審査委員賞】

「植物と人々の博物館」

特定非営利活動法人自然文化誌研究会(市民団体) 東京都日野市



秩父多摩甲斐国立公園の山村社会持続のために、農耕文化基本複合を調査研究し、生物文化多様性の保全活動を実践。在来品種による食品開発で地域経済を再構築し、環境学習による風土産業創りを行っています。



【入 賞】

※活動団体名の五十音順で掲載

- ・青根の里山を未来遺産に / あざおね社中 (神奈川県相模原市)
- ・ちいさな村の森のようちえん / 一般社団法人あしもとテラス (山梨県小菅村)
- ・ツシマウラボシシジミ生息域外保全 / 足立区生物園 (東京都足立区)
- ・くぬぎの森環境塾 / 石坂産業株式会社 (埼玉県入間郡)
- ・清水いきもの復活大作戦 / 特定非営利活動法人ECOPLUS (新潟県南魚沼市)
- ・生物多様性の保全に向けた企業の社内消費におけるフェアトレード商品の活用 / 株式会社NTTデータ (東京都江東区)
- ・Twitterを用いた、生物多様性普及活動 ～この生き物の名前はなに？～ / 小粥 隆弘 (長野県上田市)
- ・美ら島エコ・リサーチ隊 / 沖縄県立中部農林高校 造園科エコ・リサーチ部 (沖縄県うるま市)
- ・青い森の巨木写真展 / 特定非営利活動法人おどろ木ネットワーク (青森県青森市)
- ・外来種の日本地図から見えてくる生態系の今 / 外来種測量隊 (福岡県久留米市)
- ・生物多様性WEBコンテンツとフォトコンテスト / キヤノン環境サイト運営チーム (東京都港区)
- ・KESエコロジカルネットワークプロジェクト / KESエコロジカルネットワーク (京都府京都市)
- ・サンゴ礁の海を守る！赤土土砂の流出防止、棚田の再生、外来種の駆除、海浜清掃
/ 一般社団法人久米島の海を守る会 (沖縄県島尻郡久米島町)
- ・どんぐりマーケット / 神戸市立六甲道児童館 (兵庫県神戸市)
- ・よみがえれ！駒生川 / 駒生川に魚道をつくる会 (北海道網走郡美幌町)
- ・日本古来の農の暮らしによる里山の生物多様性再生事業 / 農事組合法人ざ・さとやま組合 (奈良県大和郡山市・桜井市)
- ・JTB東北ふるさと課(化) / JTBイノベーション東北デスク (東京都千代田区)
- ・和スイーツで「中海の恵み」を発信！！～スージー・スイーツ～ / 認定NPO法人自然再生センター (島根県松江市)
- ・収穫感謝祭 / 特定非営利活動法人自然と共に生きる会サンガ (福井県三方郡美浜町)
- ・下田の杜の保全・管理・お楽しみ / 下田の杜里山協議会 (千葉県柏市)
- ・あつまれ、浜わらす！ / 公益社団法人シャンティ国際ボランティア会 気仙沼事務所 (宮城県気仙沼市)
- ・生物多様性の保全を基本とした次世代へ続く里山のトレイルづくり / 特定非営利活動法人信越トレイルクラブ (長野県飯山市)
- ・須原 魚のゆりかご水田プロジェクト / せせらぎの郷 (滋賀県野洲市)
- ・カヤネズミの住むカヤ原復活プロジェクト / 全国カヤネズミ・ネットワーク (京都府京都市)
- ・竹紙(たけがみ)の取り組み ～本業を通じた社会的課題への挑戦～ / 中越パルプ工業株式会社 (東京都)
- ・図書館を使った調べる学習コンクール / 公益財団法人図書館振興財団 (東京都)
- ・散歩中に見られる生きものを映像記録しよう会 / 栃木県小山市の生き物多様性伝道師 (栃木県小山市)
- ・子どもボランティア / なぎさの体験学習館 (神奈川県藤沢市)
- ・みどりの自然観察会 / NACS-J自然観察指導員東京連絡会 (東京都日野市)
- ・森と紙のなかよし学校 / 日本製紙 森紙 (群馬県片品村)
- ・協働活動によるシマフクロウの生息地保全と事業の両立
/ 日本野鳥の会と日本製紙のシマフクロウを守ろうチーム (北海道釧路地域)
- ・福島潟の自然を守り、伝えよう / 特定非営利活動法人ねっとわーく福島潟 (新潟県新潟市)
- ・ピオトープ「つながりのひろば」における環境体験学習 / パナホーム株式会社 (大阪府豊中市)
- ・和蜂 まほろばの里 造成活動 / 特定非営利活動法人はりま田舎暮らしの会 (兵庫県佐用郡佐用町)
- ・アユさんへ 川好きが繋がりました 次は川をつなげます / 東彼杵清流会 (長崎県東彼杵町)
- ・福田川生物多様性確保プロジェクト / 福田川クリーンクラブ (兵庫県神戸市)
- ・絶滅危惧種ブッポウソウの保護など / ブッポウソウネットワーク・広島クマタカ生態研究会 (広島県広島市)
- ・明日のニッポンの素・あぜ豆醤油 / まるやま組 (石川県輪島市)
- ・ナショナル・トラスト地を題材とした学校教育プログラムの全国展開 / 三井住友信託銀行株式会社 (東京都千代田区)
- ・南魚沼きりざい井によるまちおこし / 南魚沼きりざいDE愛隊 (新潟県南魚沼市)
- ・市民団体のネットワークと行政との協働による三嶺自然林保全再生活動 / 三嶺の森をまもるみんなの会 (高知県香南市)
- ・みやこだ自然学校 / みやこだ自然学校の会 (静岡県浜松市)
- ・愉しく美味しく旬を食べる旬を遊ぶ / やまんば能登を喰らう (石川県鳳珠郡穴水町大町)
- ・かまくら和器プロジェクト / 特定非営利活動法人游風 (神奈川県鎌倉市)
- ・絶滅から救え！コアジサシ / 特定非営利活動法人リトルターン・プロジェクト (東京都大田区)

◎ 概要

2015年12月11日(金)に生物多様性アクション大賞2015授賞式を開催しました。表彰に加え受賞団体によるショートプレゼンテーションなどの企画を用意し、生物多様性を推進する仲間同士の交流を楽しんでいただきました。

1. 開催日時&プログラム

2015年12月11日(金)

13:30 受付

14:10 表彰・プレゼンテーション

16:15 大賞発表・応援メッセージ

17:00 終了

2. 会場 東京ビッグサイト(東京国際展示場)会議棟7F 703
(東京都江東区有明3-11-1)

3. 登壇者(登壇順・敬称略)

堀上 勝(環境省 生物多様性施策推進室長)

川廷昌弘(一般社団法人CEPAジャパン 代表)

足立直樹(株式会社レスポンスアビリティ 代表)

菱田豊彦(富士フイルムホールディングス株式会社 経営企画部 CSRグループ シニアスタッフ)

伊東晃(前田建設工業株式会社 CSR・環境部 マネージャー)

能勢泰祐(積水化学工業株式会社 CSR部環境経営グループ)

道家哲平(日本自然保護協会)

前田直登(公益社団法人 国土緑化推進機構 副理事長)

伊藤順朗(一般財団法人セブン-イレブン記念財団 評議員・株式会社セブン&アイHLDGS. 取締役
執行役員 CSR統括部 シニアオフィサー)

星野智子(一般社団法人環境パートナーシップ会議 副代表理事)

吉田正人(筑波大学 教授/審査委員長)

小野弘人(一般財団法人セブン-イレブン記念財団 地域活動支援事業マネージャー)

4. 司会進行(敬称略)

櫻田彩子(株式会社オーケープロダクション)

生物多様性アクション大賞2015 授賞式

◎ 表彰状授与



たべよう部門優秀賞
『特定非営利活動法人加茂女』



ふれよう部門優秀賞
『公益財団法人東京動物園協会井の頭自然文化園』



つたえよう部門優秀賞
『一般社団法人てるはの森の会』



まもろう部門優秀賞
『湖南企業いきもの応援団』



えらぼう部門優秀賞
『三菱地所レジデンス株式会社』

生物多様性アクション大賞2015 授賞式

◎ 表彰状授与



復興支援賞
『いわき海洋調べ隊・うみラボ』



グリーンウェイブ賞
『特定非営利活動法人天明水の会』



セブン-イレブン記念財団賞
『青森県立名久井農業高等学校 伝統野菜班』



審査委員賞(上列左から)『気仙沼の魚を学校給食に普及させる会』／『富士ゼロックス株式会社』／『京都府立桂高等学校 TAFS「地球を守る新技術の開発」班』(下列左から)『特定非営利活動法人ういむい未来の里CSO』／『全国農業協同組合連合会』／『やまがたヤマネ研究会』

◎ 審査委員賞受賞者プレゼンテーション

「森のいのち」を詩と映像で残す事業」

特定非営利活動法人ういむい未来の里CSO（青森県青森市）



わたしたちは子どもたちが森に入って感じたところを詩で表現する、という活動を続けています。今年は詩人の谷川俊太郎さんに批評していただく、という会を実施しました。森の中の川にもたくさんの生きものがいます。サンショウウオや日本ザリガニも住んでいます。川遊びをすると子どもたちはもう夢中で川からあがってきません。日本ミツバチも飼っています。はちみつは素晴らしい味がして子どもたちに分け与えるとワーッと感動します。こういうことをしながら森の素晴らしさを子どもたちに伝えています。森に入って感じたことを詩にして表現する。そういう感性が今少し失われているな、と感じますのでそれを高めていけたらという想いで活動しています。

「魚食普及による地方創生を図るプロジェクト」

気仙沼の魚を学校給食に普及させる会（宮城県気仙沼市）



子どもたちが地元の基幹産業である漁業を知らないまま、地元の食にふれないまま大人になっていく。これをどうにかしたいと思い学校給食に着目しました。学校給食の中身を調べると輸入食材が多く、地元の食材は全くと言っていいほど使われていません。一方、地元には内閣総理大臣賞などの賞をとった素晴らしい食材がありました。学校給食に地元の食材を使う。そして、それをみんなで食べるということを始めました。こちらは授業をやっている風景です。給食に使われている魚は誰がとって、誰が運んできて、誰が調理して、というように、食に携わる人に一人ずつスポットを当てて紹介することで、どういう仕事があるのか、どういつながりがあるのか、ということを学んでもらう取り組みです。他にも有名シェフが地元食材を使ったレシピを考案して商品化したり、パンフレットをつくって市内の学校に配布したりしています。食の大切さに対する意識を高めるために気仙沼から全国に発信していきたいです。

「田んぼの生きもの調査」

全国農業協同組合連合会 広報部（東京都千代田区）



お米を食べることがすなわち生物多様性を保っている、ということをわたしたちは積極的に伝える活動をしています。「田んぼの生きもの調査」は皆さんよくご存知でしょうが、全国で70カ所以上、のべ4,000人以上の方が参加する活動です。真剣な面持ちで田んぼの生きものを見ている子どもの表情や、図鑑を見ながら田んぼの生きものについて学んでいる姿をご覧ください。こんな子どもたちを全国に増やしていこう。そして、こういうことを理解していただける農家の方も増やしていこうということも併せて取り組んでいる活動です。田んぼはそこにあるだけで多面的な機能を発揮します。田んぼはみんなのそばにあるんだ。そして、お米をたくさん食べることでこの田んぼが守られ、生物多様性も保たれていく、ということのをこれからも伝えていきます。

◎ 審査委員賞受賞者プレゼンテーション

「地域の自生芝を活用する ～多様性のある草原を創る～」

京都府立桂高等学校 TAFS「地球を守る新技術の開発」班 (京都府ほか)



ノシバという植物の研究を通して遺伝的多様性の保全を提案しています。研究をはじめて8年目です。今年は環境省から青森県種差海岸の緑化を依頼されました。種差海岸は広大な天然芝地が貴重な観光資源となっている場所で、昭和40年までは馬の放牧によって芝地が維持されてきましたが、現在は人間の芝刈りで管理がされています。研究班では通常10%以下であるノシバの発芽率を90%以上に向上させる技術を開発して、その依頼に応えることができました。開発した種子繁殖技術は薬品を使いノシバの固い殻を溶かして開発した発芽容器に入れて発芽させます。これは自然界で馬や牛などの草食動物にノシバの種が食べられて消化器官を通して発芽率が向上するメカニズムを応用しています。わたしたちは緑化の際の遺伝子汚染に配慮しています。DNA解析による調査を実施した結果、種差海岸固有のノシバであることと同時に遺伝的多様性が失われつつあることが明らかになりました。馬の放牧がなくなり、栄養繁殖によるクローン体の増殖によることが原因でした。遺伝的多様性が失われてしまうと、環境の変化や病害虫の発生などによって一気に衰退してしまう可能性もあるので保全が必要です。私達の種子繁殖技術を用いた緑化方法は、この多様性を復元できる技術としても有効な手段になります。

「持続可能な用紙調達」

富士ゼロックス株式会社 (東京都千代田区)



複写機複合機を販売するメーカーとしてお客様に提供する紙を持続可能なものにしようと、森林保全、中性紙化、古紙の再利用、さらには、FSC認証紙やグリーン購入法適用紙の調達・販売を進めてきました。このような取り組みを持続可能なものにするため、2004年に用紙調達に関する規則を設け、2012年に改定し、サプライヤーに対する取引基準を定めています。取り組みの詳細を昨年度のサステナビリティレポートに「持続可能な用紙調達に向けて」というタイトルで特集記事として掲載しました。その中にも書いたことなのですが、規則を作っただけではそれは守られません。わたしたちはその規則の遵守を確認するため、毎年サプライヤーの取り組みを調査し、その結果を経営層も含めた会議で確認しています。さらに現地を訪れて持続可能であるかどうかを確認することも続けています。これからもお客様に安全・安心な用紙を提供できるよう、この活動を続けていきます。

「高めよう！野生動物を守る地域のパワー」

やまがたヤマネ研究会 (山形県山形市)



ヤマネという天然記念物の動物の研究情報を地域に還元したい、という想いで立ち上げました。山形県に生息している野生ほ乳類に直接会ったことがある人はほとんどいないと思います。また、絶滅種の問題、外来種の問題、鳥獣害被害の問題、など野生動物と人との間にある問題を実際に学ぶ機会はありません。そこで、地域の人たちが地元の自然環境を守り伝えていく場所を作るために自然体験プログラムを提供しています。プログラムでは2つのことを大切にしています。ひとつは最大限に五感を使うこと。ふたつめは科学的な視点をもって取り組むこと。とにかく、生きものを見て、さわって、食べて、体感します。そして大学レベルのDNA実験を行いますし、解剖なども行います。生きものを知ることはとても楽しいことなんだ、ということを伝えると共に、自分の体の仕組み、命のこと、衛生問題や社会問題なども含めてお話するようにしています。また、地域の行政や団体、大学などの力を借りて毎年新しいプログラムを提供できるようにしています。わたしたちは野生動物と人との「つながび」として活動していきたいと考えています。

◎ 特別賞受賞者プレゼンテーション

復興支援賞

「いちえふ沖海洋調査」／ いわき海洋調べ隊・うみラボ（福島県いわき市）



福島の漁業はあまり進展がないのかなというイメージの方も多くいらっしゃると思います。わたしは蒲鉾メーカーに勤めていて、福島の魚ってもう食べられませんよって言われることが多くありました。わたし自身なかなかハッキリしたことが言えない、自分たちの地元のことなのにわからない、そういう歯痒さを感じていました。そこで海ラボという調査がスタートしました。福島第一原子力発電所目の前、3km～5kmのエリアで魚釣りをして放射性物質の量を測ってインターネットで情報発信をする取り組みを続けています。第一原発沖はとてもシビアな現場だけれども、魚がたくさんいて、釣ればやっぱり笑顔になる。厳しい状況と本当に楽しい状況が混在している、というのが今の福島です。調査はいわき市のアクアマリン福島という水族館の協力を得て、釣った魚の放射性物質を測ったり、美味しい食べ方を勉強して実際に食べてみたりする、という活動を行っています。科学的な視点を交えて調べることで魚の汚染の状況や福島の海の生態や福島第一原子力発電所から出ている汚染水への理解が深まります。原発事故を経験したからこそ、問題意識が生まれて、市民の側から学んでいこうという気持ちが芽生えました。これからも福島の手でだからこそ伝えていける生物多様性や海の豊かさを皆さんと一緒に考えられるような活動を長く続けていきたいです。

グリーンウェイブ賞

「漁民の森づくり活動」／ 特定非営利活動法人天明水の会（熊本県熊本市）



『豊漁の海。有明海！』と言われますが、実は、有明海を代表する魚、ムツゴロウが一時期姿を消したのです。ムツゴロウだけではなく、環境に敏感な二枚貝のアサリなどはわずか10年で1/100にまで減りました。これが私たちの活動のきっかけとなり、海の再生に立ち上がりました。海の栄養の大部分は川から供給されています。そこで、その川を1本に結んで緑川の清流を取り戻す流域連絡会を作りました。緑川の流域は76km、その周囲には13市町村があり、その人たちが連絡会に参加してくれました。そこで、年に1回、母なる川、緑川の清掃を行っています。更に、山に木を植え、今では植林した場所は42haになり、植えた木の本数は8万本を越えています。子どもたちも森づくりや清掃活動に参加してくれています。20数年間活動してみて気づいたことは「長く続けるには、大人の遊び心が大切」。遊び心を持ち続けたおかげで子どもたちがついてきてくれていると思います。子どもたちの未来のためにも、今後もがんばっていきます。

セブン-イレブン記念財団賞

「南部太ネギで地域を元気に」／ 青森県立名久井農業高等学校伝統野菜班（青森県三戸郡南部町）



南部太ネギは青森県南地方や岩手県北地方まで広く栽培されていましたが、いつしか栽培農家数はたった1軒となり絶滅の危機に瀕していました。そんな時に立ち上がったのが青森県立名久井農業高等学校伝統野菜班です。最後の生産者から貴重な種を譲り受け、学校での栽培に挑戦しました。南部太ネギはやわらかい食感がある反面、葉の付け根が広がりやすく機械で土寄せをすると土が葉とは葉の間に入り込んで商品価値が下がってしまいます。土寄せの問題がない栽培方法を追い求めていた時に縦穴法の存在を知ります。畝に深さ30センチの穴をあけて、その中に苗を落とす方法です。土寄せは不要で除草の回数も減らすことができる、夢の方法だったのです。この縦穴法を探し出したことで南部太ネギ復活の動きが加速し、農家が続々と栽培に名乗りを上げてくれました。さらに高校生のがんばりは町長や行政そして町の活性化に取り組んできたNPOの方々の心を動かし、復活プロジェクトが本格化しました。今年度は関東地区の高級デパートでの販売も実現し、売り場ではどのような想いで南部太ネギを守ってきたか、というバックグラウンドも伝えることができました。南部太ネギの種を未来に伝えていくこと。それは、南部町の未来を守っていくことにつながっていくと信じて活動を続けていきたいです。

◎優秀賞受賞者プレゼンテーション(最終審査)

たべよう部門

竹を食べて放置竹林をなくす」 特定非営利活動法人加茂女 (京都府木津川市)



わたしたちは竹を食べて放置竹林をなくそう、という運動に取り組んでいます。特定非営利活動法人加茂女は子育ての悩みや生活の知恵を共有する井戸端会議の会として発足し、何か地域の役に立つことをしたい、という想いからアルミ缶の回収を行い、その回収資金を寄付する活動を始めました。わたしたちの街は京都の山城、竹の本場です。昔は風光明媚な竹林が広がっていましたが、竹の需要は年々減り続け、中国産の筍に価格で負けてしまった事と地元の高齢化と相まって段々と放置竹林が増えていきました。ある時、放置竹林の中にゴミを不法投棄される、という事件が起きて、最終的に産業廃棄物の埋め立て地となってしまいました。苦い経験を経たわたしたちは、アルミ缶の回収資金でナタやノコギリ、チェーンソウを買いそろえて自分たちで竹林整備に乗り出しました。ちょうど地元住民の定年退職時期とも重なり、退職した人たちも加わって、男性参加者が増えました。今では急峻な山の上1.4ヘクタールほどの広さの竹林整備を任されています。竹を切り出すためのトロッコのようなものを開発したり、竹で小屋を造ったり、ピザ釜も作りました。お屋ごはんは竹を燃料にしてピザを焼いたり、焼き芋を焼いたりして楽しんでいます。燃やすだけではもったいないと、竹細工で器をつくったりもしました。工夫をしても減る分はたかが知れています。そこで、誰が言うでもなく竹は食べて減らそう、筍のうちに食べてしまおう！ ということになりました。筍とリンゴで「竹林ジャム」を作ったり、生地に竹の粉末を入れ、具材に筍を使った「おやき」を作ったり、味付けして乾燥させた「筍スルメ」を作ったりと、今までとはひと味違った食べ方を開発して提案しています。

ふれよう部門

「いきもの広場で遊ぼう」 公益財団法人東京動物園協会井の頭自然文化園 (東京都武蔵野市)



井の頭自然文化園は吉祥寺にある小さな動物園です。「いきもの広場」は動物園の中に造った施設ですが、飼育している動物はいません。自然に集まってきた生きものたちを観察できる場所です。広さは約1300平方メートル。昆虫の餌となる木を植えたり、生きものを見やすくなるための仕掛けをつくったりしました。たとえば、土の中で暮らす虫の様子が見られる観察ボード。樹液に集まる虫がやってくるバナナトラップ。ヤモリのお家などです。生きものが暮らし繁殖しやすいように仕掛けをすることで様々な姿を1年中楽しめます。これまでに観察された生きものは約300種を越えました。いきもの広場は毎週日曜日に1時間オープンしています。その間は井の頭自然文化園の職員とボランティアスタッフ十数人で子どもたちと一緒に生きもの探しをしています。毎回約130人くらいの利用があって、そのうちの1/3がリピーターです。「いきもの広場」では、生きものを見るだけでなく触ってもらいたい。名前を知ることよりもどんな感触だった、とか、どこにどんなふうにいる、とか、子どもたち自身に感じてもらいたい。生きものを見つけるコツをつかんだら、外に出かけていって生きもの探しをしてもらいたい。そんな想いで活動しています。そのためにはスタッフの存在がとても重要です。生きものを発見する喜びを共有したり、触れない子どもを励ましたり、何よりスタッフが子どもたち以上に生きものに夢になる姿を見せることでこんな風に自然を楽しんでいいんだよ、ということをも身をもって伝えられると考えているからです。「いきもの広場」であそんだ子どもたちが、生きものを守りたいという気持ちを自然に育んで、将来、生物多様性の大切さを自分のこととして考えられる大人になることを願っています。

つたえよう部門

「人と自然のふれあい調査」 一般社団法人てるはの森の会 (宮崎県宮崎市)



照葉樹林をご存知ですか？ 椎や樫などの常緑広葉樹は葉がテカテカと光って見えることから、しょうよう、てるは、と言われています。昔は西日本に群生していましたが、今はほとんど伐採されて残っていません。まとまった照葉樹が国内最大級に残っているのが宮崎県綾町です。これを守ろうと2005年綾の照葉樹林プロジェクトが始まりました。一般社団法人てるはの森の会と官民五社で協定を結んで活動をしています。目的は2つ。ひとつは照葉樹林の保護復元。もうひとつは照葉樹林とその文化を通じた地域づくりです。照葉樹林帯の近くにある人工林の間伐をして照葉樹の芽吹きを促し、最後には人工林を切って照葉樹林を復元します。しかし大きな問題がありました。もともと綾の森は天然の山ではなく大きな二次林だったこともあり、地元の人にとっては行政がやっていることという認識でプロジェクトを遠く感じていました。そこで、人と自然のふれあい調査を始めました。調査の目的は地域にある人と自然の豊かなふれあいを再発見し、守り、引き継いでいく。地域を考えることで、生物多様性の豊かさを感じ、プロジェクトに参加してもらう人を増やそうということです。調査はアンケートをとり、世代別に懇談会を開き、みんなで現地を歩いて調査を行い、お年寄りには聞き取りをして、集まった情報をGPSで地図上に落とし込んでマップ作りをしました。この調査は外部の有識者が始めたものを地元NPOが引き継ぎ、住民の参加を促すかたちで現在進められています。地元住民が自然の豊かさ地域の重要性を再認識し、地域の未来を考えることにつながっています。様々な取り組みが評価され2012年7月、綾は生物圏保存地域としてユネスコエコパークに正式登録されました。8年目を迎えたふれあい調査は現在も継続中です。後世に何を残し、何を伝えていけばいいのか。ふれあい調査は皆さんの地域でも生物多様性を実感でき地域の再発見につながるすることができます。

◎優秀賞受賞者プレゼンテーション(最終審査)

まもろう部門

「中小企業連携で進める生物多様性保全の取り組み」 湖南 企業いきもの応援団（滋賀県草津市）



湖南企業いきもの応援団は、滋賀県の南部に拠点を置く中小企業の集まりで、メンバーは12社で業種は様々です。活動のきっかけとなったのは滋賀経済同友会が発表した「琵琶湖生きもののイニシアティブ」という宣言です。生物多様性を守ることは身近な生きもののあるべき姿で未来に引き継ぐことと考え、まずは、身近な生きものたちの現状を調べることから始めました。中小企業が集まってネットワークを作ることで1社当たりの負担を減らし、情報を共有して、交流を深めながら継続的な調査を行うことを目指してきました。調査結果の信頼性を高めるため、草津市の環境課や琵琶湖博物館の協力をいただいています。活動拠点は地元の狼川。上流から下流まで6カ所の調査ポイントを設け、2010年の5月から調査を開始して季節ごとに年4回調査をしています。調査のやり方は各社2-3名ずつ出て、20名ほどがそれぞれの場所に別れて、水質調査と生きものの採取を行います。その後、1ヶ所に集合して、採れた生きものの種の同定、計測、記録撮影などを行います。採った生きものは採集場所に戻してから調査結果を取りまとめます。これまでに絶滅危惧種のメダカなども見つっていますが、外来種の多さにも驚かされています。この調査データを参考に、県の指定外来種の候補が検討されるなど、県の自然保護政策にも貢献しております。また、COP10の公開フォーラムをはじめ、様々な場所で活動報告をさせていただいております。新たな展開として、今年度からは地域との連携を始めており、草津市のこども環境会議や地元のふれあいイベントにも参加し、小学校への出前授業や夏休みの公開講座のお手伝いなども行っており、この小学校には「狼川水族館」が作られました。狼川はありふれた都市河川です。「ないものねだりより、あるものさがし」、身近な自然こそが生物多様性を考える絶好の場所だと、この活動を通じて感じています。これからも横の連携を広め、未来に向かって縦の連携を伸ばしていくことが、生物多様性の主流化につながる新しいアプローチになるのではないのでしょうか。

えらぼう部門

「BIO NET INITIATIVE ～いのちをつなぐ街づくり～」 三菱地所レジデンス株式会社（東京都千代田区）



私たちは、年間約5,000戸・50棟のマンションを供給しています。このマンション1棟1棟で行い、いのちをつなぐ街づくりを目指しています。

最初に、住宅街を鳥や虫の目線で見てみたいと思います。聞くとところによるとシジュウカラは1度に飛べる距離がわずか100m前後だそうです。このシジュウカラが街を行き来するためには、シジュウカラが良く知った、好きな樹木が繋がっている必要があるそうですが、大きな公園にはそういった木々が生えていても、その周辺にそういった木々がなければ、行動範囲を広げづらいということに気づかされて驚きました。

そこで、私たちはマンションの敷地の大小に関らず、全てのマンションで生物多様性の保全を意識した植栽計画を行うことで、エコロジカルネットワークが形成されていくことを目指すこととしました。つまり、30戸くらいの小規模なマンションから700戸くらいの大規模マンションの全てで実施することで、点が繋がって線となり、面としてつながる街づくりをしています。一つ一つのマンションで取り組んでいる具体的なアクションは、購入するお客様にも分かりやすいよう「守ること」「育てること」「つなぐこと」「活かすこと」「減らすこと」の5つにまとめました。例えば、地域の在来種を大切にす、病害虫の発生が少ない樹種を選ぶ、刈り込みの頻度を減らす、といった取り組みをしています。私たちが目指していることは、この取り組みを先進的な取り組みとして取り扱われることではありません。私たちが敷地の大小に関わらず一つ一つ取り組み続けることで、このアクションを世の中の常識にしたいと考えています。それによって、街での取り組みが地球規模につながっていくと信じています。

※本取り組みは、当社の分譲マンションブランド「ザ・パークハウス」で行っているものです。

◎ 結果発表



大賞: 特定非営利法人加茂女「竹を食べて放置竹林をなくす」

審査員長からのコメント

「特定非営利活動法人加茂女の活動は、アルミ缶回収から始まって活動歴28年。これだけ長く継続するのは非常に大変なことです。継続だけでも素晴らしいですけれども、放置竹林問題は日本全国で大きな課題となっています。この放置竹林を食べて解決しよう、という発想がまず素晴らしい。そこから更に踏み込んで、たくさんの人を巻き込みながら活動をしていること。たとえば、竹林にピザ釜を作るなど竹林の環境整備に男性陣も巻き込んで、参加者の層が広がっていった点を高く評価して大賞とさせていただきます。」

◎ 集合写真



◎ 協賛企業様からの応援スピーチ



前田建設工業株式会社 CSR・環境部 マネージャー
伊東 晃 様

弊社が本大賞を応援している理由が2つあります。ひとつは草の根的な生態系保全活動に光を当て、生態系保全活動を全国的に展開しようとしている点です。もうひとつは本大賞が持続的発展を計画されている点です。弊社が営む建設という事業は、少なからず環境に負荷を与えてしまうことがあります。そのため、弊社では施工時に極力環境保全に留意することはもちろん、「地球」と「未来」をステークホルダーと位置付けた、地球への配当という取り組みを行っています。これは、連結純利益の2%を上限に、環境保全活動の支援に拠出するものです。この中には、社員の環境活動を推進するためのエコポイントという仕組みがあります。社員やその家族が環境活動に取り組むと、環境配慮製品と交換できるポイントが付与されるもので、環境活動にはグリーンカーテンづくりや生き物の観察など、生物多様性に関する活動が含まれます。また、企業としても、森林保全を通じた環境教育やNPOと協働したプロジェクトの企画・参加を通じて、全社一丸となって生物多様性保全を持続的に推進しており、まさに本大賞と目的が一致しています。これから本大賞で受賞された方々の活動に光が当てられていくことで、さらにステップアップした活動が生まれてくることを期待しています。



積水化学工業株式会社 CSR部環境経営グループ
能勢泰祐様

セキスイハイムという名前で本大賞に協賛させていただいて3年目です。私事ですが、わたしの住まいは横浜市港北ニュータウンにあります。この街はグリーンマトリックスシステムというコンセプトで作られていて住宅の緑、公園の緑が緑道でつながって地域全体でエコロジカルネットワークが形成された街です。週末は犬を連れて公園へ散歩に出かけます。植物や昆虫の写真撮って環境省の生きものログに報告したりしています。都市の中にながらも生きものと共存共栄している感覚があります。振り返ってみるとわたしの行動も生物多様性アクション大賞5部門に結びついたものになっているな、と実感しています。本大賞がこれからもっと広がりを見せて素晴らしい環境づくりにつながることを期待しております。



富士フイルムホールディングス株式会社 経営企画部
CSRグループ シニアスタッフ
菱田 豊彦様

入賞された皆様おめでとうございます。当社はこの生物多様性アクション大賞受賞者にデジタルカメラの贈呈というかたちで2013年(初回)よりご支援させていただいています。皆様の活動を写真に収め広く発信して頂きたいと願っています。さて、皆様の発表を拝見していると、どの活動にも笑顔が溢れているというのが共通していてとても印象的でした。皆様の活動が明るく楽しく活性化しているからこそ笑顔が溢れ、このようなアワードに入賞できるレベルの活動が維持されているのだな、と感じました。この度の受賞を活動の励みにしながら、この笑顔益々広げて、更に発展していかれることを祈念しています。

◎ 協賛企業様からの応援スピーチ

公益社団法人 国土緑化推進機構 副理事長 前田 直登 様



私どもはグリーンウェイブ賞として『特定非営利活動法人天明水の会』を表彰させていただきました。生物多様性の保全と共に生態系サービスの持続的な利用にむけて流域の視点から多様なフィールドで漁民の森づくりを続けた、という活動です。森は海の恋人、というのを地でいくような素晴らしい活動でした。20年以上にわたって植林を続けた、大変なる尽力の中での成果です。森づくりを起点に流域の視点で生きものと人々の暮らしを結びネットワークを広げながら生物多様性保全を促している、このような活動が全国に広がっていくことを心から強く期待しています

一般財団法人セブン-イレブン記念財団 地域活動支援事業マネージャー 小野 弘人様



当財団の資金源はセブン-イレブンのレジ横にある募金箱です。1日1店舗約60円です。年間で約4億2,000万円になります。この募金を皆様からお預かりして、助成金として様々なNPOを支援しています。それでも届かないようなところに支援を届けるために、共催として本大賞に協力させていただいています。今回受賞された皆さんの中には「なぜそのような活動をやっているの？」と周辺の人に言われたことがある方もいると思われます。でも勇気をもって1歩踏み出してきたからこそ、活動が広がったのだと思います。受賞した皆さん、これからそれぞれの地域に帰って今日の受賞をぜひ自慢してください。こんな賞をもらったんだよ、認められたんだよと自慢してもらいたいです。そして地域から日本の生物多様性を広げていってほしい。地域が変われば日本が変わります。みんなで日本を変えていきましょう。生物多様性を日本から変えていきましょう。

エコプロダクツ2015での発表

2015年12月12日(土)、東京ビックサイトで開催された日本最大級の環境展示会エコプロダクツ2015で、5部門優秀賞受賞者の皆さまは、エコプロダクツ2015会場のステージで、生物多様性アクション大賞アンバサダーのさかなクンと共演。大賞を受賞した特定非営利活動法人加茂女の曾我千代子さんには活動内容を発表していただきました。さかなクンによる、お魚クイズを交えたトークも楽しく、会場は大入り満員の大盛況で、生物多様性をぐっと身近に感じられるステージになりました。

◎概要

開催日時	平成26年12月12日(土)13:30~14:15(45分間)
会場	東京ビックサイト 東3ホール「イベントステージ」
主催	一般社団法人産業環境管理協会、日本経済新聞社
演題	今年は愛知ターゲットの折り返し点！達成は大丈夫か日本！ もっと身近に生物多様性を、さかなクンと一緒に考えよう！
内容	愛知ターゲットの目標年である2020年まであと5年！日本では多様なセクターが参加する「国連生物多様性の10年日本委員会」が目標の達成に向けた活動に取り組んでいます。暮らしの中で生物多様性を考える「MY行動宣言5つのアクション」もその一つ。5つのアクションにちなんだアワード「生物多様性アクション大賞2015」の大賞受賞団体のプレゼンテーションを行い、アンバサダーである「さかなクン」と一緒に、私たちにもできる5つのアクションを考えていきます！
出演者	さかなクン(東京海洋大学 客員准教授) 川廷昌弘(CEPAジャパン理事) 奥村 奈津美(フリーアナウンサー) 生物多様性アクション大賞2015大賞受賞団体 ※敬称略※
客席	約100席



出演者全員での記念撮影



会場を埋め尽くす観客



大賞・NPO加茂女のプレゼン

受賞者アンケート結果(回答数:7)

1) 今回の受賞について感想をお聞かせください

・当会では「食育活動」をメインとして活動しており、この取り組みが評価されましたことは今後の活動により一層の励みとなりました。

・コツコツと、活動を継続してきました。今回の受賞は、会員たちの励みとなります。ありがとうございました。又、当会の活動に協力・協賛して下さった各方面の皆さんやボランティア参加の皆さんに、感謝と御礼の言葉を添えた報告が出来ました。

・今まで活動の成果が評価され、大変うれしく思います。また、2名の招待や賞金・賞品が手厚いし、懇親会等も開催されて、有意義なものでした。

・今回の応募は団体のチャレンジとして応募したため、受賞をいただき、何よりも驚きが大きかったです。団体への叱咤激励と思い、野生動物の現状の普及啓発により一層努めていきたいと思っています。

・大変嬉しく思っております。同時に、他団体の活躍に驚き、励まされました。

・思わぬことで、本当に感激しています。ありがとうございました。

・生物多様性といったテーマは、伝えて、理解してもらうことが難しいです。また、当社のように住宅を扱う会社として、第一に入居するお客様の生活のことを十分に考えながら、生物に対しても配慮した取り組みを行う難しさがありました。今回の受賞によって、生物への配慮をしながら、生活者の暮らしにも配慮した取り組みを目指している当社としては、本アワードにおいて賞を受賞できたことで、その認知を広げるきっかけとなる可能性も出てくるため、大変有難いと考えています。当社の受賞を通じて、同業他社も同じような取り組みを始めるきっかけになれば、当社が目指す街全体で取り組んでいけることにもつながると思っています。

2) 授賞式について感想をお聞かせください。

・さまざまな業種の方と交流、情報交換ができ見聞が広まる良い機会となりました。ありがとうございました。

・多くの団体が出席して、それぞれプレゼン出来た事がとても良かったと思います。懇親会も開催していただいたので、他団体や企業の方々との意見交換の花が咲き実りある一日となりました。
又、事務局の木村様をはじめ、準備団体から当日、又請求関係に至るまで、細やかな対応に感謝しております。

・かなり狭い場所で、プレゼンの時間が短くて、その割に賞が多くて優秀賞や大賞の安っぽく感じた。

・他の受賞団体さんの講演や活動内容を聞いたことが非常に刺激となりました。来年度の活動の参考になるとともに、今回の受賞団体さんの活動を紹介や商品をイベント内で提供するなど野生動物をコラボしたものを計画できればと思っています。

受賞者アンケート結果

2) 授賞式について感想をお聞かせください。(続き)

・さまざまなバリエーションで、楽しく過ごさせていただきました。何よりも、地元新聞社が取材で来てくれて、翌日の朝刊に大きい扱いで掲載され、当団体の関係者から、たくさんのお祝いの声をいただいた事が、大きな喜びでした。貴法人から、プレスへの働きかけに関して、お礼を申し上げます。

・11日は、他の活動の報告も聞けて良かったです。12日は「さかな君」と、ステージに上がれて光栄でした。

・審査員の方のみで審査を行うことは当然の中、授賞式並びにエコプロダクツの場において、分野の異なる団体の皆さまの活動を知ることには然ることながら、最終プレゼンを伺うことができ、皆さまがどれだけの気持ちを持って取り組みをされているのかを同時に知ることができ、当社の今後の活動に向け、大いに励みとなりました。分野も異なれば生物多様性の取組みは多岐にわたるが、最終的に目指していることは同じであるため、当社も自分たちのできるところから地道にでも継続的に続けていくことが大切だと再認識できました。

3) 今後のアクション大賞に対する期待、ご要望などあれば、ご自由にお書きください。

・環境保全是さまざまな生物の保護以外にも、「食」を守る側面もあるかと思いますので、食に携わるものとして、「食」の重要性についてもウエイトを置いていただくと嬉しいです。

・この賞の威厳というか格式が低く感じられるので、広く知られて、評価の高い賞になるようにしてほしい。例えば、大臣表彰など。賞の数も、もう少し少なくてもいいのでは、特に入賞の数は多すぎる。

・ぜひ交流したいという思いから、入賞団体さんを紹介するポスターブースなどあればもっと嬉しく感じます。

・生物多様性というテーマは、思いのほか難しいものがあります。この賞への注目を促すために、生物多様性についての説明会やパネルディカッションなどを、全国各地で開催し、その中でこの賞への応募を説明していくような事が出来れば、注目度も増すように思います。青森県主催の生物多様性についての講座があり参加しましたが、主催者の認識が低く、困惑しました。

・やはり、小さな活動を積み上げてきたグループが賞を取るのがいいですね？私たちのような活動でも評価されたと思うと、力がわいてきますから・・・。

・本アワード自体の周知活動を継続してほしいと思います。周知が広がることで、まずは各団体・企業が生物多様性の取組みを行うきっかけになるものと思われます。

4) 生物多様性保全の取り組みを行なうにあたり、今後どのような支援が必要だと思われますか？

- ・ 各団体との連携（プラットフォームの構築）及び広報活動。

今回授賞式に参加をしてさまざまな団体が活動をしていることを知りました。この各団体が連携を図ることができたら、地域で抱えている問題解決のキッカケになるのではと思いました。広報活動につきましては、一般の方に関心を持ってもらう点が必要と感じました。三菱地所の方の言葉で「先進的な取り組み」ではなく「当たり前の取り組み」が印象に残っています。

- ・ 何を計画するにも、最低一人分の給与と事務作業用のパソコン・コピー機・電話などが必要です。当団体の様に、売り上げ（収益）を伴わない団体などは、資金調達が一番の悩みです。

- ・ 活動団体の連携で、情報交換や交流の場があればいいと思います。授賞式をそのような場でやれば、一度入賞した団体でも、参加できるのではないかと思います。

- ・ 活動への資金援助とともに、若手育成のための高校生や大学生に対する普及啓発活動があればと思います（たとえば、優秀賞団体の活動見学・体験ツアーなどへの誘致）。

- ・ 貴組織が、市民組織やNPOと、一般企業や公的機関との、コーディネーター役として力を発揮していただきたい。財政支援のみならず、人的支援、プログラム支援など、小さい組織ながらも、高いミッションやポテンシャルのある団体の能力を引き出し、大きな成果を上げるサポートの役割を担っていただきたい。そのような産官学民の交流会を開催頂ければ、幸いです。

- ・ やっぱり、お金を頂けると、活動に使えるのでありがたいです。補助金の申請などに、大賞受賞が有利に働くようになればありがたいですね。

- ・ 生物多様性の取組みをすることが、新しい取り組みを行っているものではなく、地球環境や社会にとって当然のことであるといった認識をより多くの生活者が理解できるような土壌を作るためにもっと、広げていくための露出を期待したいと思います。具体的には、今回のアワードを通じて、生物多様性の取組みによることの生活者にとってのメリット享受や貢献度をわかりやすく伝えきればいいと思います。

◎いきものぐらしホームページ(<http://5actions.jp/>)



◎生物多様性アクション大賞2015

特設サイトトップページ(<http://5actions.jp/award/>)



©facebook公式ページ(https://www.facebook.com/5actions.award)



生物多様性アクション大賞

Facebookページ メッセージ お知らせ インサイト 投稿ツール 設定 ヘルプ

生物多様性につながる
あなたの活動を応募しよう

活動募集中 2015.6.5(水) - 8.31(水)

生物多様性アクション大賞 2015

たべよう 食生活の改善キャンペーン
ふれよう 自然体験活動
つたえよう 自然体験活動
まもろう 自然体験活動
えらぼう 自然体験活動

生物多様性アクション大賞 コミュニティ

タイムライン 基本データ 写真 いいね! もっと見る

いいね! 594件 今週: +2件

今週の投稿のリーチ20人

ページフィードを表示
他のページの投稿を表示

友達に「いいね!」をリクエスト

¥600でページを宣伝
日本の人々にリーチを広げる

ページを宣伝

情報

本賞は、全国各地で行われている5つのアクションに貢献する団体・個人の取り組みを表彰し、積極的な広報を行うことにより、生物多様性の主流化を目指すものです。活動規模の大小を問わず、あらゆるセクターに「生物多様性の自分ごと化」を促し、「国連生物多様性の10年」の広報、教育、...

ステータス 写真・動画 クーポン、イベントなど

何が書く...

生物多様性アクション大賞さんが写真2件を追加しました
作成者: 木村 江美 | 2015年12月14日

【2015年度 大賞決定!!!】
12/11(金) 生物多様性アクション大賞2015の授賞式を取り行い、優秀賞5部門のプレゼンテーションを経て大賞が決定いたしました。栄えある大賞は・・・
NPO法人加茂女さんの「竹を食べて放置竹林をなくす」です。...
もっと見る

生物多様性アクション大賞 2015

◎メディア掲載実績

【WEB】

No.	媒体名	掲載日
1	J-Net21	6月5日～
2	環境展望台	6月5日～
3	エコナビ	6月5日～
4	東北環境パートナーシップオフィス「EPO TOHOKU」	6月8日～
5	alterna	6月9日～
6	YAHOO!JAPANニュース	6月9日～
7	Enavi HOKKAIDO	6月11日～
8	西東京市市民協働推進センター「ゆめこらぼ」	6月16日～
9	山口県県民活動スーパーネット	6月16日～
10	EPOちゅうごく	6月17日～
11	藤沢市市民活動推進センター	6月17日～
12	出雲エコナビ	6月17日～
13	ASUMIN WEB	6月20日～
14	大船渡市市民活動支援センター	7月7日～
15	ごてんば市民活動支援センター	7月7日～
16	ゆめバングとくしま	7月14日～
17	ちよだボランティアセンター	7月15日～
18	すみだ地域団体活動情報	7月15日～
19	ピッピネット	7月16日～
20	まつやまNPOサポートセンター	7月18日～
21	秋田県公式サイト「美の国あきたネット」	7月21日～
22	朝日新聞DIGITAL	7月22日～
23	日刊建設工業新聞オンライン	7月22日～
24	千葉県公式サイト	7月25日～
25	名張市市民活動センター	7月26日～
26	秋田県市民活動情報ネット	7月30日～
27	市民活動はまちの未来を創造する	7月31日～
28	長野県公式サイト	8月3日～
29	com3	8月3日～
30	一宮市市民活動支援センター	8月11日～
31	ながおか市民協働センター「コライト」	8月14日～
32	南房総みんなネット	8月17日～
33	地域の未来・志援センター	8月17日～
34	名商ecoクラブ	8月18日～
35	真岡市市民活動推進センター「コラボー下岡」	8月19日～
36	高知県公式サイト	8月21日～
37	沖縄県公衆衛生協会	8月20日～
38	みえ市民活動ボランティアセンター	8月23日～

◎メディア掲載実績

【新聞】

No.	媒体名	掲載日
1	東京新聞	2015年7月17日号
2	朝日新聞(東京)	2015年7月22日号
3	朝日新聞(札幌)	2015年7月22日号
4	日刊建設工業新聞	2015年7月22日号
5	日刊建設産業新聞	2015年8月18日号
6	毎日新聞	2015年8月21日号夕刊

生物多様性アクション大賞

国連生物多様性の10年日本委員会(U NDB・J)は、生物多様性の保全や持続可能な利用につながる活動を表彰する「生物多様性アクション大賞2015」の候補を募集している。テーマは「たべよう」「ふれよう」「まもろう」「えらぼう」の5部門。8月31日まで応募を受け付ける。

前田建設、セキスイハイムが協賛している。

2011〜2020年の10年間は国連が定めた「国連生物多様性の10年」。アクション大賞は、この間の目標達成に向け、市民や企業、団体などによる取り組みを後押しすることを目的とした。今回で3回目となる。アンバサダーはタレントで東京海洋大学客員准教授のさかなぐんが務めている。

吉田正人筑波大教授が審査長を務める審査委員会が各部門から優秀賞を選定。優秀賞受賞者によるプレゼンテーションを経て12月に大賞を決める。大賞賞金は30万円、復興支援費なども設けている。授賞式は12月に行う。

応募は「生物多様性アクション大賞」特設ページ (<http://www.undb-j.org/award>) から。問い合わせは事務局(電話03・52606・6770)へ。

8月31日まで応募受け付け

日刊建設工業新(2015年7月21日)

情報ボード

▼生物多様性アクション大賞2015募集

「国連生物多様性の10年日本委員会」は、生物多様性の保全や持続可能な利用につながる活動をする個人・団体に、「生物多様性アクション大賞2015」(賞金30万円)への応募を呼び掛けている。10年に名古屋市で開催された「生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)」で、自然との共生社会実現を目指して採択された「愛知目標」の達成に向けての活動の一環。今年が3回目。「たべよう」「ふれよう」「まもろう」「えらぼう」の5部門で優秀賞を選び、受賞者による12月に開かれる

東京新聞(2015年7月17日)

プレゼンテーションを経て大賞を表彰する。締め切りは8月31日。詳細はHP(大賞名で検索)で。

生物多様性アクション大賞 活動募集中

生物多様性の保全や持続可能な利用につながる活動を募集します。「たべよう」「ふれよう」「まもろう」「えらぼう」の5部門で優秀賞を選び、さらに優秀賞の中から大賞を選定します。地産地消で旬の食材を使う取り組みや海や山での自然体験、グリーン購入など、規模の大小を問わず、全国各地のさまざまな活動が対象です。

募集はホームページ(<http://actions.jp/award/>)。8月31日閉締め切り。

お問い合わせは同賞事務局(03・52606・6770)メールaward@cepa.jp

(国連生物多様性の10年日本委員会主催、朝日新聞社ほか後援)

生物多様性アクション大賞募集

保全の取り組みなど UNDB・J

国連生物多様性の10年日本委員会(UNDB・J)の主催で、セブン・イレブン記念財団が共催し、前田建設が協賛している「生物多様性アクション大賞2015」の募集が8月31日まで行われている。今年で3回目の開催となり、生物多様性の保全や持続可能な利用に取り組んでいる団体や個人から、部門ごとの取り組みを募集している。11年から20年までの10年間は、国連の定めた「国連生物多様性の10年」で、連生物多様性の10年」で、一人ひとりが生物多様性の

日本建設産業新聞 (2015年8月18日)

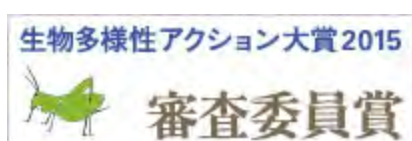
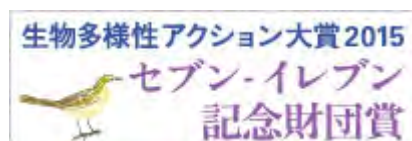
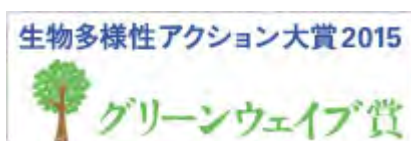
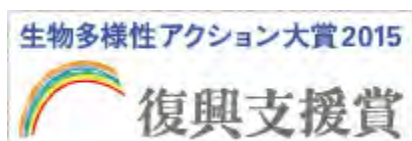
の恵みを考え、将来に引き継ぐために行動していく10年となっている。この活動を日本国内で広めるため、「国連生物多様性の10年日本委員会(UNDB・J)」が11年9月に設立された。

同大賞は、全国各地で行われている生物多様性の保全や持続可能な利用につながる活動を募り、表彰するもの。「たべよう」「ふれよう」「まもろう」「えらぼう」の5部門で優秀賞を選定し、優秀賞受賞者によるプレゼンテーションを経て、大賞を選定する。

対象となる活動は、日本国内を拠点とする活動であること、計画に確実性があり、応募の段階で活動実績があること、継続性(概ね3年以上)が見込まれることなど。9月から10月にかけて審査を行い、11月に優秀賞を発表。12月に優秀賞受賞者によるプレゼンテーションを行い、大賞を選定する。

朝日新聞(2015年7月22日)

◎受賞者ロゴとバナー（以下のデータを配布して受賞者の方に使っていただきました。）



◎一次審査を通過した活動のHP掲載

【URL】<http://5actions.jp/>

受賞活動以外にも一次審査を通過した45件の活動を、いきものぐらしのHPにて紹介しています。
(掲載許可をいただいたものののみ)

◎メディア掲載実績(2015年1月時点)

【新聞】

No.	媒体名	掲載日	掲載内容
1	北國新聞	2015年11月20日号	【入賞】やまんば能登を喰らう、まるやま組
2	福島民友	2015年12月2日号	【復興支援賞】うみラボ
3	空調タイムス	2015年12月2日号	授賞式告知
4	いわき民報	2015年12月6日号	【復興支援賞】うみラボ
5	福島民報	2015年12月8日号	【復興支援賞】うみラボ
6	千葉日報	2015年12月12日号	【2015結果】共同通信社配信記事
7	京都新聞	2015年12月12日号	【大賞】NPO加茂女、京滋分受賞団体紹介
8	上毛新聞(前橋)	2015年12月12日号	【2015結果】共同通信社配信記事
9	福島民報	2015年12月12日号	【2015結果】共同通信社記事 【復興支援賞】うみラボ
10	中日新聞(浜松版)	2015年12月12日号	【2015結果】共同通信社配信記事
11	東奥日報	2015年12月12日号	【セブン-イレブン記念財団賞】名久井農業高等学校 【審査委員賞】ういむい未来の里
12	奈良新聞	2015年12月13日号	【2015結果】共同通信社配信記事
13	美幌新聞	2015年12月22日号	【入賞】駒生川に魚道をつくる会
14	伝書鳩	2015年12月23日号	【入賞】駒生川に魚道をつくる会
15	山梨日日新聞	2015年12月23日号	【2015結果】共同通信社配信記事
16	産経新聞(滋賀)	2015年12月24日号	【優秀賞】湖南 企業いきもの応援団＋共同配信記事
17	毎日新聞	2015年12月29日号	【2015結果】NPO加茂女、その他特別賞まで紹介
18	熊本日日新聞	2015年12月30日号	【グリーンウェイブ賞】天明水の会
19	宮崎日日新聞	2016年1月16日号	【優秀賞】てるはの森の会

◎メディア掲載実績(2015年1月時点)

【新聞】

東奥日報 (2015年12月12日号)

いわき海 洋調べ隊 「うみラボ」特別賞受賞
国連生物多様性アクション大賞2015

有志の市民団体として活動 県沖の魚介類調査など評価

「県沖の魚介類調査」で顕著な功績を挙げた「うみラボ」が、国連生物多様性アクション大賞2015の特別賞を受賞した。この賞は、生物多様性の保全と持続可能な利用に貢献する活動や団体を表彰するもので、今年度は全国から135件の応募があった。うみラボは、県沖の魚介類の調査や、環境教育の活動などを通じて、生物多様性の保全と持続可能な利用に貢献していることが評価された。

「うみラボ」は、県沖の魚介類の調査や、環境教育の活動などを通じて、生物多様性の保全と持続可能な利用に貢献していることが評価された。

いわき民報
(2015年12月6日号)

人間と生物共存 多様性アクション
本県から2団体受賞

名久井農伝統野菜班 ういむい未来の里(青)

「人間と生物共存 多様性アクション」の活動の一環として、県内各地で行われている。この活動は、生物多様性の保全と持続可能な利用に貢献する活動や団体を表彰するもので、今年度は全国から135件の応募があった。ういむい未来の里(青)は、伝統野菜の栽培や、環境教育の活動などを通じて、生物多様性の保全と持続可能な利用に貢献していることが評価された。

「環境守り親しむ」
生物多様性アクション大賞

「天明水の会」(南区)特別賞
「漁民の森」づくりなど評価

「環境守り親しむ」は、生物多様性の保全と持続可能な利用に貢献する活動や団体を表彰するもので、今年度は全国から135件の応募があった。天明水の会(南区)は、漁民の森のづくりや、環境教育の活動などを通じて、生物多様性の保全と持続可能な利用に貢献していることが評価された。

熊本日日新聞
(2015年2月30日号)

「湖南企業いきもの応援団」が優秀賞
生物多様性アクション大賞

自然や環境を守る活動に力を入れる団体や個人を表彰する「生物多様性アクション大賞」の最終審査が東京都内で行われ、草津市の企業などで構成し、河川の水質調査や生物調査を継続的に進めている「湖南企業いきもの応援団」が優秀賞に選ばれた。

産経新聞(滋賀)
(2015年12月24日号)

生物多様性保全活動表彰
本津川のNPOに大賞

加茂女は、放流竹林対策に力を入れている。この活動は、生物多様性の保全と持続可能な利用に貢献する活動や団体を表彰するもので、今年度は全国から135件の応募があった。本津川のNPOは、放流竹林の対策や、環境教育の活動などを通じて、生物多様性の保全と持続可能な利用に貢献していることが評価された。

毎日新聞 (2015年12月29日号)

京都新聞(2015年12月12日号)

◎メディア掲載実績(2015年1月時点)

【WEB】

No.	媒体名	掲載日	掲載内容
1	Excite	2015年11月11日～	【入賞】NTTデータ(プレスリリースから)
2	infoseek楽天	2015年11月11日～	【入賞】NTTデータ(プレスリリースから)
3	RBBTODAY	2015年11月11日～	【入賞】NTTデータ(プレスリリースから)
4	財經新聞	2015年11月11日～	【入賞】NTTデータ(プレスリリースから)
5	産経ニュース	2015年11月11日～	【入賞】NTTデータ(プレスリリースから)
6	BIGLOBEニュース	2015年11月11日～	【入賞】NTTデータ(プレスリリースから)
7	フェアトレードジャパン	2015年11月26日～	【入賞】NTTデータ
8	福島民報	2015年12月8日～	【復興支援賞】うみラボ
9	47NEWS	2015年12月8日～	【復興支援賞】うみラボ(福島民報から)
10	緑のgoo	2015年12月8日～	【復興支援賞】うみラボ(福島民報から)
11	YAHOO!JAPAN ニュース	2015年12月8日～	【復興支援賞】うみラボ(福島民報から)
12	Web東奥	2015年12月11日～	【セブン-イレブン記念財団賞】名久井農業高等学校 【審査委員賞】ういむい未来の里
13	47NEWS	2015年12月11日～	【セブン-イレブン記念財団賞】名久井農業高等学校 【審査委員賞】ういむい未来の里(東奥日報から)
14	緑のgoo	2015年12月11日～	【セブン-イレブン記念財団賞】名久井農業高等学校 【審査委員賞】ういむい未来の里(東奥日報から)
15	日刊スポーツ	2015年12月11日～	【2015結果】共同通信社配信記事
16	NHK NEWS web	2015年12月11日～	【復興支援賞】うみラボ
17	EICネット	2015年12月14日～	【大賞決定】(環境省情報から)
18	京 生きものミュージアム	2015年12月15日～	京都市内入賞3団体
19	EPOちゅうごく	2015年12月15日～	【2015結果】受賞団体一覧
20	J-Net21	2015年12月15日～	【大賞決定】(環境省情報から)
21	伝書鳩	2015年12月23日～	【入賞】駒生川に魚道をつくる会
22	草津市役所web	2015年12月28日～	【優秀賞】湘南 企業いきもの応援団
23	毎日新聞	2015年12月29日～	【2015結果】NPO加茂女、その他特別賞まで紹介
24	宮崎日日新聞	2016年1月16日～	【優秀賞】てるはの森の会
25	みんなの趣味の園芸 P1	2016年1月5日～	【セブン-イレブン記念財団賞】名久井農業高等学校
26	みんなの趣味の園芸 P2	2016年1月5日～	〃
27	さかなクンオフィシャルサイト		トークイベント出演情報

◎メディア掲載実績(2015年1月時点)

【WEB】

47NEWS 日本が誇る 47NEWS

ベルリッツの無料カウンセリング
www.berlitz.co.jp
英語学習を送っているあなたに。無料カウンセリングで不安払拭。

トップ ニュース速報 地域ニュース スポーツ速報 地域スポーツ トピックス エンタメ カルチャー コラム 医療
都道府県別 ホットニュース おでかけ 撮れたて 地域経済 新商品・新技術 地域再生 地域動画 山への誘い GOH
47NEWS > 各地のニュース > 都道府県 > 青森 > 名農伝統野菜班など受賞／生物多様性大賞

G+ シェア ツイート いいね! 0 チェック

名農伝統野菜班など受賞／生物多様性大賞

人間が多彩な生物と共存できる社会環境づくりに貢献した団体を選ぶ「生物多様性アクション大賞」の表彰式が11日、東京都江東区の東京ビッグサイトで開かれた。本県からは、セブンイレブン記念財団賞を獲得した名久井農業高校生物生産科の伝統野菜班、審査委員賞に選ばれた青森市のNPO法人「ういむい未来の里CSO」

… [記事全文]

2015/12/11 19:02 [東奥日報]

つぶやく

ホーム 共同ニュース 地域ニュース

47NEWS (2015年12月11日 ～)

産経ニュース 東京 9°C 関西 オピニオン フォト

ホーム スポーツ エンタメ ライフ 地方 日経 日本力 Value

速報 事件 政治 国際 経済 コラム 特集 写真 ランキング

金融・財政 産業・ビジネス IT 新商品 プレスリリース ショッピング

名前や漢字が出ない…100万本突破の栄養素とは？ [PR]

2015.11.11 17:40 文字の大きさ 小 中 大 印刷

「生物多様性アクション大賞2015」でNTTデータが入賞

ツイート おすすめ 99 G+ 0 PRIMES

株式会社NTTデータ
株式会社NTTデータ（以下：NTTデータ）は、2015年11月6日に発表された、生物多様性アクション大賞2015(国連生物多様性の10年日本委員会(UNDB-J)主催)において、「生物多様性の保全に向けた企業の社内消費におけるフェアトレード商品の活用」取り組みが、生物多様性に向けた施策として評価され、入賞しました。

「生物多様性アクション大賞」は、暮らしの中で生物多様性を考える5つのアクション（たべよう、ふれよう、つたえよう、まもろう、えらぼう）に取り組む団体・個人を表彰するものです。

NTTデータは、これからもさまざまなかたちでCSR活動の推進に努めています。

◇「国連生物多様性の10年日本委員会」(UNDB-J)について
2011年から2020年までの10年間は、国連の定めた「国連生物多様性の10年」です。2010年10月に名古屋で開催された生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)で採択された、生物多様性保全のための新たな世界目標達成を目指し、生物多様性の保全と持続可能な利用に関する取り組みを推進するため、2011年9月に設立されました。

◇生物多様性アクション大賞について
「国連生物多様性の10年日本委員会」(UNDB-J)では、暮らしの中で生物多様性を考える「5つのアクション」(たべよう、ふれよう、つたえよう、まもろう、えらぼう)を広く呼びかけています。「生物多様性アクション大賞」は、この5つのアクションに取り組む団体・個人を表彰し、生物多様性の主流化に貢献するもので、今年で3回目の開催です。

[画像: http://prtimes.jp/i/16308/2/resize/d16308-2-617709-0.jpg]

◇生物多様性アクション大賞2015 受賞結果
http://5actions.jp/award/result.html

◇生物多様性アクション大賞2015
http://5actions.jp/award/

◇国連生物多様性の10年日本委員会
http://undb.jp/

産経ニュース (2015年12月11日 ～)

YAHOO! JAPAN ニュース IDでもっと便利に新規取得 ログイン

キーワードを入力 ニュース Q +

トップ 速報 写真 映像 雑誌 個人 特集 意識調査

主要 国内 国際 経済 エンタメ スポーツ IT・科学 ライフ 地域

北海道・東北 関東 信越・北陸 東海 近畿 中国 四国 九州・沖縄

いわき「うみラボ」入賞 生物多様性アクション大賞

福島民報 12月8日(火)10時31分配信

Twitter Facebook

いわき海洋調べ隊「うみラボ」が国連生物多様性の10年日本委員会(事務局・環境省)「生物多様性アクション大賞2015」で特別賞の復興支援賞を受けた。福島県内団体の入賞は初めて。

うみラボは、いわき市民や大学教授ら有志によって平成25年秋に発足した。東京電力福島第一原発沖の魚介類や海底土を採取し、アクアマリンふくしまの協力で放射性物質検査を実施している。測定結果はホームページなどで公開している。受賞について、うみラボ発起人の市内の自営業小松理彦(りけん)さん(36)は「福島海の豊かさ、魅力を多くの人に伝えられるよう活動を続けたい」と話した。

アクション大賞は生き物や自然を守る活動、環境に優しい商品開発などに取り組む団体を表彰している。今回は3回目で、全国から135件の応募があり、65団体が表彰される。表彰式は11日、東京都の東京ビッグサイトでされる。

福島民報社
最終更新:12月8日(火)10時53分

福島民報社

YAHOO!JAPAN ニュース (2015年12月8日 ～)

宮崎日日新聞 MIYAZAKI PRESS Twitter Facebook 何探し

宮崎のニュース 国内外ニュース オピニオン 宮崎のスポーツ くらし・グルメ

HENRI BENDEL NEW YORK \$25 off \$50 off \$150 EVERY \$250

ホーム > 地域の話題 > 県央 >

てるはの森の会、優秀賞 生物多様性アクション大賞

2016年1月16日

綾町などで照葉樹林の保全活動などを行う「てるはの森の会」(宮崎市、河野耕三代表理事)が、生物多様性の保全や持続可能な利用に取り組む団体・個人を表彰する「生物多様性アクション大賞2015」(国連生物多様性の10年日本委員会主催)で、大賞に次ぐ優秀賞を受賞した。同町の自然や暮らしを集約したマップ作りなどを通じて、地域の魅力再発見につながったことなどが評価された。

(全文は17日付朝刊または携帯サイトで)

宮崎日日新聞 (2016年1月16日 ～)

◎メディア掲載実績(2015年1月時点)

【TV】

No.	媒体名	放送日	掲載内容
1	NHK福島「はまなかあいづ」	2015年12月11日	【復興支援賞】うみラボ
2	NHK宮崎「イブニング宮崎」	2016年2月9日	【優秀賞】てるはの森の会



◎メディア掲載実績(2015年3月時点)

【専門誌】

No.	媒体名	発行日	掲載内容
1	国土緑化推進機構機関誌 「ぐりーん・もあ」Vol.72	2015年12月28日	【グリーンウェイブ賞】天明水の会
2	セブンイレブン記念財団広報誌 「みどりの風」	2016年3月12日	【セブン・イレブン記念財団賞】 名久井農業高等学校



「ぐりーん・もあ」 vol.72



「みどりの風」



国連生物多様性の10年日本委員会(UNDB-J)

●ひたち海浜公園 沢田湧水ネイチャーハウス (茨城県)



沢田湧水ネイチャーハウスに設置された「生物多様性の本箱」は公園利用者の誰でも自由に閲覧・利用できる開架式展示。



ひたち海浜公園内の沢田湧水地は、得意な地形によって形成され生物多様性豊かな沢が保全されている。



毎週末と祝日に沢田湧水地パークパートナーによる観察会ツアーや調査・保全活動が行われ、湿地性植物や水生生物や昆虫の希少種も数多くみられ、親子連れの利用も多い。



●六戸町立六戸小学校 (青森県)



毎年、十和田八幡平国立公園の鳶沼へ自然観察授業を、青森県自然観察指導員連絡会「ウォッチング青森」の指導員の協力で実施している六戸小学校。

自然観察指導員、田中氏、小関氏による1年生への絵本読み聞かせ授業。



寄贈式では、全校児童に向け高学年の図書委員から、お気に入りの図書の紹介や、泉教頭先生、日本自然保護協会鶴田事務局長、「ウォッチング青森」の田中氏から自然と人の暮らしのつながりについてお話。

